

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000210	事業の開始年月日	平成20年4月1日	
		指定年月日	平成20年4月1日	
法人名	社会福祉法人豊笑会			
事業所名	ライフハウス平戸			
所在地	( 244-0803 )			
	神奈川県横浜市戸塚区平戸町1156-2			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成22年10月25日	評価結果 市町村受理日	平成23年1月7日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・ご利用者の今までの生活習慣を大事にし、日常生活の中で無理なく出来ることを行なっただき、「穏やかに微笑み豊かな介護」を目指し、職員はご利用者一人ひとりのペースに合わせて必要な支援をしています。</p> <p>・季節ごとの行事やボランティアによる催し、毎日のレクリエーションを通じて単調な生活にならないようにしています。納涼祭などの大きな行事の際には、法人内の事業所同士で協力し合い、盛大に行なっています。また天気の良い時は出来る限り、屋外に出るようにし、散歩や買物を楽しまれています。歌がお好きなご利用者が多いため、いつも歌声が響いている明るいホームです。</p>
---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成22年11月19日	評価機関 評価決定日	平成22年12月10日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>&lt;事業所の優れている点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人の関連事業所（特別養護老人ホーム、グループホーム、小規模多機能型居宅介護など）の間で情報を交換し協力し合い、また、複数の医療機関と往診・24時間の連絡・対応体制ができており、利用者・家族が安心して事業所のサービスを受けている。</li> <li>・法人の基本理念である「豊かで穏やかなほほえみの介護、ご家族と地域の皆様との関係をより大切に」を職員が理解して実践している。この結果、利用者の表情は皆明るく、家族は、職員の礼儀正しく親切な対応と、事業所との連携にも満足しており、事業所が提供するサービスを高く評価している。</li> <li>・近隣の中学校の生徒への福祉体験学習や、区内の介護福祉士専門学校对学生に対する現場実習を積極的に受け入れ、事業所の力を活かして社会貢献をしている。</li> <li>・家族の要望が強い利用者の気分転換、体調維持のために外出(散歩、買い物、外食、季節の行事外出など)を積極的に行っている。</li> </ul> <p>&lt;事業所が工夫している点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人内の他の事業所と合同で防災訓練を行い、行事に引き招かれる関係を作っており、また、近隣の住民を事業所の行事に招いて良好な関係を保ち、緊急時に相互に協力する態勢ができています。</li> <li>・利用者の排泄パターンを把握して誘導しており、排泄の失敗を少なくし、また、オムツから自立に改善した例があり効果が出ている。</li> </ul>
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ライフハウス平戸
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家族や地域の方々との関係を大切に開放的なグループホーム作り」を理念の一つに挙げ、職員の目に付く場所に掲示し、会議等を通じて周知している。	・法人の理念「豊かで穏やかなほねみの介護、家族と地域の方々を大切に」と事業所方針「ライフハウス平戸のお約束」を玄関、事務所に掲示し、申し送りやユニット会議で理念、方針に沿うように課題について話し合い、実践に結び付けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は毎日のように散歩や買物に外出し、近隣の人とのふれあいがもてるようにしている。また事業所で行なう納涼祭等の行事の案内をしたりしている。	・散歩、買い物には、日常的に出かけ、近隣の他法人の事業所の花見会や秋祭りに参加し、事業所の納涼祭に近所の方が参加するなど、利用者が地域の一員として交流するように支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学校の福祉体験学習や区内にある介護福祉士専門学校の学生の現場実習を受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で活動状況を報告し、各委員より意見をもらっている。改善できる内容は、職員会議等で検討している。	・4か月ごとに開催し、メンバーは町内会長、民生委員、家族代表、地域包括支援センターの職員、事業者である。 ・会議は、主に事業所の状況報告が中心であり、家族から利用者の健康に関する悪化時や緊急時の対応について質問があった。	参加メンバーから、運営やサービスに関する率直な意見を聴きだし、改善すべき課題を話し合い、サービスの向上に結びつけることが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	戸塚区グループホーム連絡会に参加し、情報交換をしている。また地域包括支援センターの担当者には毎月定期的に訪問していただき、何かあれば相談している。	・市役所の担当者とは、介護認定更新手続き以外にも日常的に連携をとり、協力関係ができています。 ・毎月、地域包括支援センターの職員が訪問し、空き室情報やその他サービス面での情報交換をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、ユニットリーダーが中心となり、身体拘束の対象となるような行為がないように職員に周知している。利用者の安全上やむを得ない場合は玄関の施錠を行なっている。	・管理者、ユニットリーダーが、ユニット会議や日常のサービスを通じて、職員に身体拘束の禁止を指導し周知している。 ・居室、ベランダは開錠しており、玄関は安全上施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士がお互い気を付け、虐待に当たる行為がないように事業所全体で注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用している利用者もいる。必要があればその都度、家族等の相談に乗っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき細かい説明を心がけている。また改定時にも理解して頂けるように丁寧に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの要望等は、出来る限り意見が反映されるようにその都度、職員間で検討するようにしている。	・利用者は日常の会話を通じて、また、家族は訪問時に意見や希望を職員に伝え、居室担当が把握してユニット会議などで検討している。 ・外出を増やして欲しいとの意見が多く、買い物、散歩、外食、初詣、花見など多くの外出の機会を設けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は各事業所の管理者を招集した会議や法人内グループホーム連絡会を開催し意見や提案を聞いている。また管理者は毎月のユニット会議の中で職員の意見を聞く機会を設けている。	・管理者は法人内のグループホーム連絡会で、職員はユニット会議で意見を表明している。また、管理者は日常的な職員の意見や悩みを聞いている。リビング内の配置や、行事内容の提案などの事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部職員が定期的に事業所を訪問し、職員個々の就業状況の把握に努めており、職場環境の改善、整備をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内事業所の新任職員を対象にオリエンテーション、新人研修を行っている。外部研修への参加の機会も徐々に増やしている。管理者、ユニットリーダーが中心となり、現場で指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・横浜市グループホーム連絡会や戸塚区グループホーム連絡会にて勉強会、情報交換をしている。 ・隣接するグループホームとは、防災訓練、行事などで日常的に情報交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の見学時や自宅訪問時に本人の話を良く聞き、実際の活動中の様子を見学していただいたり、見学が難しい利用者にはパンフレット等で事業所の説明をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談、見学、自宅訪問等、段階を踏んで話を聞く機会を設けている。必要に応じてサービス提供事業者からも話を聞いたり、情報収集を行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで出来る事、出来ない事を説明し、本人と家族にとって一番良いと思われる支援を共に考え、アドバイスするように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庭で野菜の栽培や園芸の作業や調理を利用者と共に行なっている。肥料のやり方、栽培方法や調理方法を経験のある利用者から教えて頂くことがある。</li> <li>・掃除は、各場所の担当を決め利用者を手伝って頂いている。</li> </ul>		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な面会をお願いし、本人との関係を持っていただいている。</li> <li>・行事等の参加や通院の同行、外出、外泊で協力して頂いている。</li> </ul>		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の対応が可能であれば、自宅への外泊や外出をしていただいている。親戚や知人の方の面会があった場合は、また面会していただける様をお願いしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の知人や友人が時折訪ねてくるが、認知度が進むにつれ知人を思い出せなくなり、面会効果が薄れる傾向にある。</li> <li>・家族が対応できる場合は、墓参りや自宅に外泊したり、通いなれた理美容院や外出を楽しむことが多い。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し、食堂の席や作業グループを決めたりしている。自立度の高い利用者が他利用者のお世話をして頂いたりすることもある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所後、自宅へ戻られた利用者は少ないが、電話で連絡を取ったりしている。 ・長期入院のため退所した利用者の病院に面会したりして状況の確認をし、再入所の可能性があれば、家族と相談している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	居室担当者が担当の利用者と信頼関係を築き、日々の会話や支援を通して、利用者一人ひとりの希望や意向を把握するように努めている。本人の確認が困難な場合は、家族の意見を聞き検討している。	・居室担当者が中心になって本人の意向を把握し、他の職員も日常会話、職員連絡帳、申し送り、ユニット会議を通じて利用者の思いや意向を把握している。 ・本人の意見表明が困難な場合は家族から意見を聞くこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や在宅時の担当ケアマネージャーから情報を収集し、アセスメントシートに記載し本人の状況を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の1日の生活の中で職員が気付いた事は各帳票類に記録し、職員間で情報を共有できるようにしている。また毎日の申し送りや毎月の会議の中で、利用者一人ひとりの状態を把握できるように話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・入居前に本人が趣味で行っていたことや生活習慣を本人、家族から聞き取り、介護計画に反映している。 ・計画の見直しが必要な場合は、毎月のユニット会議で利用者の課題を検討している。	・本人や家族の希望、医師の指示、居室担当の把握事項をもとにして、毎月ケアカンファレンスを行い、全利用者の現状と課題を把握し介護計画に反映している。 ・計画は3か月ごとに見直し、家族の承認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況報告書に日中、夜間の状態を分け記載をしている。利用者の様子、職員の対応状況を記録し、全職員が把握できるようなかたちになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や利用者の状況に応じて、法人内の事業所間で検討が必要な事があれば総合的に支援できる体制を整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にウクレレ、ハーモニカ、ハンドマッサージ等のボランティアの方に来訪していただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、利用者の希望により、入居前からのかかりつけ医に受診している利用者もいる。また通院に負担がある利用者においては2週間に1回の訪問診療を受け、主治医と連携をとっている。	・かかりつけ医を継続している利用者が2名いる。戸塚共立第2病院の他に、育成会横浜病院(月2回内科往診)、南横浜さくらクリニック(月2回内科往診)が可能であり家族が選択できる。何れも24時間連絡・対応が可能である。 ・必要に応じて歯科医の往診がある。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、利用者の8割は2週間に1回、訪問診療を受けており、看護師と日常面での健康管理について相談をしている。診療日以外で、利用者の健康上の問題がある場合は看護師に連絡し、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医療相談員との定期的な連絡や病院での面会の際に医師や看護師等から本人の状態を確認し、家族と共に退院に向けた話し合いの場を設けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や利用者の意向を踏まえ、重度化した場合の対応について職員間での話し合い、方向性を考えている。重度化し対応困難な場合は、法人内の他サービスで支援が可能であるか、随時検討できる体制を整えている。	・事業所は医療行為や看取りを行わない方針であり、入居時に家族、本人に了解を得ている。重度化した場合は医師、家族と連携し入院など適切に対応している。 ・2名の職員が今年7月に外部研修(死生観など)を受けた。ただし、実際には昨年、今年ともに看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時必要な応急処置、対応をミーティング等で確認し合っている。事故発生時は管理者、ユニットリーダーと連絡を取り、指示のもと適切に対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	他法人が運営するグループホームに隣接しており、合同で防災訓練を行ったり、日頃からお互いに協力し合える体制をとっている。	・年2回、消防署員の指導のもとで、隣接する他法人のグループホームと合同で、利用者が参加して防災訓練を行っている。近隣の介護施設や住民との付き合いを大切に、緊急時にお互い協力し合える体制を築いている。水、非常食などを4日分常備している。防寒、暴雨のためのブルーシートを用意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損ねることが無いように、会議等で職員間の対応を確認し合っている。不適切な言動があった場合は管理者、ユニットリーダーが個別に指導している。	・職員は利用者が分かるように、穏やかにゆっくり話し、笑顔で声のトーンや、強い言葉使いをしない会話を心がけている。 ・毎日職員連絡帳に記録し情報を共有し、ミーティングで話し合っている。個人情報の記録は事務所に施錠して保管している	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に決めていただけるような声掛け、対応を行なっている。本人の意向が確認しにくい場合は、行動や表情の変化を察知し、本人が納得され行動しているかどうか考察し、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴・レクリエーションの時間は決まっているが、本人の状態に合わせて参加して頂いたり、他の方法を考え、無理に働きかけていない。日程や時間を変更し、本人のペースで1日を過ごして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は美容師免許をもつ職員がおり、家族や利用者の好みを踏まえ対応している。ボランティアによるハンドマッサージや化粧も行なっている。衣替えの時期には本人の好みの物を家族に入れ替えをお願いしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配膳・下膳は個々の能力に応じて、行なって頂いている。献立は配食会社で決められているが、変更することもできる。誕生日会や行事の際は、利用者の好みを踏まえ、職員が献立を考え提供する場合もある。	・利用者の健康状態や希望に合わせて味付け、献立を変更している。利用者と職員は楽しい会話をしながら食事をし、必要場合は職員が介助をしている。 ・配膳・下膳。食器拭きなど利用者にはできるとに参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は毎食記録をしている。献立は配食会社の栄養士によりカロリー計算、栄養バランスは十分に考えられている。また一人ひとりの嗜好や状態に合わせて、職員が工夫して調理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを励行し、必要に応じて口腔ケアの介助をしている。就寝前には入れ歯洗浄剤を使用し清潔を維持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し本人の排泄パターンを把握して、日中は尿意・便意がはっきりしない利用者にもできる限りトイレに誘導し、便座に座ってもらっている。	・利用者の排泄パターンを把握し、1人ひとり定期的にトイレに誘導する事により失敗は少なくなっている。病院から退院した利用者でオムツから自立に改善した例もある。外出前に必ずトイレ誘導をしている。夜間も定期的な誘導を要する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトなどの乳製品や水分補給時にオリゴ糖入りのゼリーを提供している。また適度な運動が出来るように、スタッフが作成したビデオ体操を行ったり、散歩の機会を設けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間帯は基本的に決まっているが、本人の状態や希望により入浴日や時間を変更している。入浴の拒否がみられる利用者の方の対応も、タイミングや声かけ等を工夫し、支援している。	・週に3日、13時から15時30分の間と決めているが、希望があれば随時入浴できる。入浴を好まない利用者には時間をおいて、穏やかな状態の時に誘導している。 ・ゆず湯、菖蒲湯などの入浴剤や仲の良い2人での入浴を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣や状態によって、就寝・起床時間を合わせている。日中はリビングのソファで休んでいただいたり、昼寝が出来るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容が変わった場合は服薬後の状態を観察している。また訪問診療を受けている利用者の場合は、薬剤師より薬の目的、用法、服薬時の注意点について説明を受け、職員側からは服用時の状態を報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活習慣を配慮して、調理や掃除などの家事を役割分担し、行なってもらったり、以前趣味で行っていた絵画、裁縫、園芸などが行なえるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、近くの公園などに散歩に出かけたり、庭先やベランダで日光浴やレクリエーションなどを行なうようにしている。また個別の外出は家族対応で協力して頂いている。	・天候の良い日は、1日1回近隣の公園や平戸川などを車椅子の利用者も一緒に職員と散歩をしている。調査訪問日、近くのホームセンターに職員とクリスマスツリーを買いに出かけた利用者がいた。市営バスを借りて動物園への見学を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・日用品、食材、おやつ等の買物で利用者の方に支払いをしていただいたり、納涼祭などの行事の際に金券や小銭を持って頂く機会をつくっている。お小遣い程度を自己管理している利用者もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話が出来るように対応している。本人が行なうことが困難な場合は、必要に応じて職員が補助をしている。手紙を希望される方はいないが、家族宛に日記やメモを付けている利用者の方はいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、食堂には利用者と一緒に作った作品を飾ったり、行事などの写真の掲示や季節に応じた装飾をしている。また共用部分の照明や室温は状況により調整している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1階のリビングは、ベランダに出られるので日光浴ができる。</li> <li>・壁には利用者が作ったちぎり絵や習字の作品を掲示している。もみじや花の飾り付けで季節感を出している。</li> <li>・トイレに空気清浄機と暖房を設置している。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係を配慮しながら、食堂の席を決めたり、ソファでくつろいだりして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が長年利用されてきた家具や寝具などを持ち込んで頂いたり、家族の写真など本人の愛着のある物を置いたり、心地よく過ごせるように配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クローゼット、エアコンは備え付けであるが、ベッド・布団・写真・鏡台・タンスなどの馴染みの物を持ち込んでいる。</li> <li>・職員が居室の温度を適切に設定し、湿ったバスタオルで湿度を調整している。居室の入り口に利用者の名前と写真を掲示して、利用者や家族が居室を間違えないようにしている。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで安全に移動が出来るようになっている。トイレや居室がわかるように表示などを工夫している。		

事業所名	ライフハウス平戸
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらい
			3, 利用者の1/3くらい
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家族や地域の方々との関係を大切に開放的なグループホーム作り」を理念の一つに挙げ、職員の目に付く場所に掲示し、会議等を通じて周知している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は毎日のように散歩や買物に外出し、近隣の人とのふれあいがもてるようにしている。また事業所で行なう納涼祭等の行事の案内をしたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学校の福祉体験学習や区内にある介護福祉士専門学校の学生の現場実習を受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で活動状況を報告し、各委員より意見をもらっている。改善できる内容は、職員会議等で検討している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	戸塚区グループホーム連絡会に参加し、情報交換をしている。また地域包括支援センターの担当者には毎月定期的に訪問していただき、何かあれば相談している。		

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、ユニットリーダーが中心となり、身体拘束の対象となるような行為がないように職員に周知している。利用者の安全上やむを得ない場合は玄関の施錠を行なっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士がお互い気を付け、虐待に当たる行為がないように事業所全体で注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用している利用者もいる。必要があればその都度、家族等の相談に乗っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき細かい説明を心がけている。また改定時にも理解して頂けるように丁寧に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの要望等は、出来る限り意見が反映されるようにその都度、職員間で検討するようにしている。		



ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は各事業所の管理者を招集した会議や法人内グループホーム連絡会を開催し意見や提案を聞いている。また管理者は毎月のユニット会議の中で職員の意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部職員が定期的に事業所を訪問し、職員個々の就業状況の把握に努めており、職場環境の改善、整備をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内事業所の新任職員を対象にオリエンテーション、新人研修を行っている。外部研修への参加の機会も徐々に増やしている。管理者、ユニットリーダーが中心となり、現場で指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市グループホーム連絡会や戸塚区グループホーム連絡会にて勉強会、情報交換をしている。</li> <li>・隣接するグループホームとは、防災訓練、行事などで日常的に情報交換をしている。</li> </ul>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の見学時や自宅訪問時に本人の話を良く聞き、実際の活動中の様子を見学していただいたり、見学が難しい利用者にはパンフレット等で事業所の説明をしている。		

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談、見学、自宅訪問等、段階を踏んで話を聞く機会を設けている。必要に応じてサービス提供事業者からも話を聞いたり、情報収集を行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで出来る事、出来ない事を説明し、本人と家族にとって一番良いと思われる支援を共に考え、アドバイスするように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庭で野菜の栽培や園芸の作業や調理を利用者と共に行なっている。肥料のやり方、栽培方法や調理方法を経験のある利用者から教えて頂くことがある。</li> <li>・掃除は、各場所の担当を決め利用者を手伝って頂いている。</li> </ul>		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な面会をお願いし、本人との関係を持っていただいている。</li> <li>・行事等の参加や通院の同行、外出、外泊で協力して頂いている。</li> </ul>		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の対応が可能であれば、自宅への外泊や外出をしていただいている。親戚や知人の方の面会があった場合は、また面会していただける様をお願いしている。		

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し、食堂の席や作業グループを決めたりしている。自立度の高い利用者が他利用者のお世話をしたりすることもある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所後、自宅へ戻られた利用者は少ないが、電話で連絡を取ったりしている。 ・長期入院のため退所した利用者の病院に面会したりして状況の確認をし、再入所の可能性があれば、家族と相談している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	居室担当者が担当の利用者と信頼関係を築き、日々の会話や支援を通して、利用者一人ひとりの希望や意向を把握するように努めている。本人の確認が困難な場合は、家族の意見を聞き検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や在宅時の担当ケアマネージャーから情報を収集し、アセスメントシートに記載し本人の状況を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の1日の生活の中で職員が気付いた事は各帳票類に記録し、職員間で情報を共有できるようにしている。また毎日の申し送りや毎月の会議の中で、利用者一人ひとりの状態を把握できるように話し合っている。		

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・入居前に本人が趣味で行なっていたことや生活習慣を本人、家族から聞き取り、介護計画に反映している。 ・計画の見直しが必要な場合は、毎月のユニット会議で利用者の課題を検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況報告書に日中、夜間の状態を分け記載をしている。利用者の様子、職員の対応状況を記録し、全職員が把握できるようなかたちになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や利用者の状況に応じて、法人内の事業所間で検討が必要な事があれば総合的に支援できる体制を整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にウクレレ、ハーモニカ、ハンドマッサージ等のボランティアの方に来訪していただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、利用者の希望により、入居前からのかかりつけ医に受診している利用者もいる。また通院に負担がある利用者においては2週間に1回の訪問診療を受け、主治医と連携をとっている。		

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、利用者の8割は2週間に1回、訪問診療を受けており、看護師と日常面での健康管理について相談をしている。診療日以外で、利用者の健康上の問題がある場合は看護師に連絡し、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医療相談員との定期的な連絡や病院での面会の際に医師や看護師等から本人の状態を確認し、家族と共に退院に向けた話し合いの場を設けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や利用者の意向を踏まえ、重度化した場合の対応について職員間での話し合い、方向性を考えている。重度化し対応困難な場合は、法人内の他サービスで支援が可能であるか、随時検討できる体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時必要な応急処置、対応をミーティング等で確認し合っている。事故発生時は管理者、ユニットリーダーと連絡を取り、指示のもと適切に対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	他法人が運営するグループホームに隣接しており、合同で防災訓練を行ったり、日頃からお互いに協力し合える体制をとっている。		

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損ねることが無いように、会議等で職員間の対応を確認し合っている。不適切な言動があった場合は管理者、ユニットリーダーが個別に指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に決めていただけるような声掛け、対応を行なっている。本人の意向が確認しにくい場合は、行動や表情の変化を察知し、本人が納得され行動しているかどうか考察し、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴・レクリエーションの時間は決まっているが、本人の状態に合わせて参加して頂いたり、他の方法を考え、無理に働きかけていない。日程や時間を変更し、本人のペースで1日を過ごして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は訪問理容を定期的に依頼している。ボランティアによるハンドマッサージや化粧も行なっている。衣替えの時期には本人の好みの物を家族に入れ替えをお願いしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配膳・下膳は個々の能力に応じて、行なって頂いている。献立は配食会社で決められているが、変更することもできる。誕生日会や行事の際は、利用者の好みを踏まえ、職員が献立を考え提供する場合もある。		

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は毎食記録をしている。献立は配食会社の栄養士によりカロリー計算、栄養バランスは十分に考えられている。また一人ひとりの嗜好や状態に合わせ、職員が工夫して調理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを励行し、必要に応じて口腔ケアの介助をしている。就寝前には入れ歯洗浄剤を使用し清潔を維持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し本人の排泄パターンを把握して、日中は尿意・便意がはっきりしない利用者にもできる限りトイレに誘導し、便座に座ってもらっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトなどの乳製品や水分補給時にオリゴ糖入りのゼリーを提供している。また適度な運動が出来るように、スタッフが作成したビデオ体操を行ったり、散歩の機会を設けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間帯は基本的に決まっているが、本人の状態や希望により入浴日や時間を変更している。入浴の拒否がみられる利用者の方の対応も、タイミングや声かけ等を工夫し、支援している。		

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣や状態によって、就寝・起床時間を合わせている。日中はリビングのソファで休んでいただいたり、昼寝が出来るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容が変わった場合は服薬後の状態を観察している。また訪問診療を受けている利用者の場合は、薬剤師より薬の目的、用法、服薬時の注意点について説明を受け、職員側からは服用時の状態を報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活習慣を配慮して、調理や掃除などの家事を役割分担し、行なってもらったり、以前趣味で行なっていた絵画、裁縫、園芸などが行なえるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、近くの公園などに散歩に出かけたり、庭先やベランダで日光浴やレクリエーションなどを行なうようにしている。また個別の外出は家族対応で協力して頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・日用品、食材、おやつ等の買物で利用者の方に支払いをしていただいたり、納涼祭などの行事の際に金券や小銭を持って頂く機会をつくっている。お小遣い程度を自己管理している利用者もいる。		



ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話が出来るように対応している。本人が行なうことが困難な場合は、必要に応じて職員が補助をしている。手紙を希望される方はいないが、家族宛に日記やメモを付けている利用者の方はいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、食堂には利用者と一緒に作った作品を飾ったり、行事などの写真の掲示や季節に応じた装飾をしている。また共用部分の照明や室温は状況により調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係を配慮しながら、食堂の席を決めたり、ソファでくつろいだりして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が長年利用されてきた家具や寝具などを持ち込んで頂いたり、家族の写真など本人の愛着のある物を置いたり、心地よく過ごせるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで安全に移動が出来るようになっている。トイレや居室がわかるように表示などを工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ライフハウス平戸

作成日 平成22年12月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の内容が、主に事業所の活動状況報告が多く、運営やサービスの改善に結びつくような議論が少ない。	事業所の運営やサービスに対して、会議参加者から率直な意見をいただき、検討できるようにする。	毎回の会議で何か1つテーマを決めて参加者が議論できるようなかたちをつくる。	6ヶ月
2	3	近隣の中学生や専門学校生に対しての職場体験や実習は積極的に受け入れているが、地域住民に対して、事業所の力を活かした地域貢献が少ない。	地域の人々に向けて事業所の力を活かせる機会を増やしていく。	町内会や地域包括支援センター等と協同して、認知症高齢者の介護について、事業所の経験を地域の人々に発信していける機会をつくる。	1年
3					
4					
5					